

兵庫県立舞子高等学校第四十八回卒業証書授与式 校長式辞

厳しい寒さだった冬も終わりを告げ、暖かな日差しが感じられる今日の良き日に、同窓会長大矢徹様、PTA 会長小田真吾様のご臨席、そして卒業生のご家族の皆様のご列席のもと、兵庫県立舞子高等学校第四十八回卒業式を執り行うことができますことは、私どもにとってこの上ない喜びであり、誠に嬉しく存じますとともに本校を代表し、深く感謝申し上げます。

先ほど卒業証書を授与しました第四十八回生二百二十六名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そしてご家族の皆様、本日、お子様がご卒業を迎えられますことを職員一同お喜び申し上げます。誠におめでとうございます。本校入学以来、新型コロナウイルス感染と向き合う中で、生徒と共に過ごされた日々を思い出し、その成長を実感されていることと存じます。またその三年間、本校教育活動にご理解並びにご協力賜りましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

皆さんは、中学校三年時に臨時休校を経験し、中学校でのまとめとなる多くの行事が実施できずやりきれない思いをかかえて高校に入学してきたことと思います。高校でも随分と制限を加えられ、一・二年生の間は思ったような高校生活ができず、「自分たちではどうしようもない」ことに振り回された時期で辛かったことでしょう。三年生になった五月からは、感染症の枠組みも変わり、行事等の制限が各学校に任されるようになりました。そこで本校では多くの行事を従来通りのスタイルに戻しつつ、今の時代に合ったものにしていくため、先生方とも相談し、また生徒会の意見も取り入れながら文化祭での模擬店をスタートしました。来場者の数は一気に増やすことはできなかったため制限をさせていただきましたが、生徒活動においてはそのときにできることはやれたと思っています。またご来場いただいた方々も久しぶりの活気あふれる行事に満足していただけたようでした。さらに体育祭では、昨年、陸上競技大会を体育祭に変えたということで、その方向で進めながら全学年六クラスとなったことと創立五十周年をむかえることから地域にも声かけをして本校グラウンドでの実施を決めました。種目、時間配分、テントの場所、アナウンスや音楽の音の大きさ等初めてのことで戸惑うことも多かったと思いますが、クラスTシャツを着て大いに盛り上がりを見せ、楽しめた行事になったのではないのでしょうか。ご家族の皆様にも見ていただくことができ良い行事になりました。

このように今まで制限が加えられて我慢してきたことややりたいことができなかった時を経て、できることへの感謝の気持ちや多くの人の関わりを感じることができた一年になったのではないのでしょうか。加えて、今年には本校創立五十周年を迎え、記念式典が行われ特別な年となりました。学校創立半世紀の歴史を見て改めて自分の通う学校に愛着を持てたと思います。このようなタイミングで在学していたことは高校時代の思い出の一つとなったことでしょう。

また、皆さん全員と面談をしました。この面談は一学期に終わりましたので、十分に話を聞けなかったかもしれませんが、とても真面目に真剣に私に話をしてくれた表情はとても印象に残っています。進路実現に向け頑張ったことや行事をやりきったことなど充実した時間を過ごせたことでしょう。昨年度より成年年齢が18歳に引き下げられ、皆さんの中には現時点ですでに成年になった人が多いと思います。高校卒業後は成年扱いをされることが多く、一人の社会人としてみられます。言動に対して責任の重み

が変わってきます。準備を怠らず、周りへの配慮を忘れることなく、感謝の気持ちを持ってこれからの人生を歩んでいってください。

そんな皆さんにある方が話された内容を紹介し、門出に向けた激励とさせていただきます。一つ目は「辛い」という漢字と「幸」という漢字についてです。生きてると「辛」く感じることは多いです。そしてその辛さを手で包むように抱きかかえ、辛抱して次の一步を踏み出す行動を起こします。そうすれば「辛い」という漢字に一本足して「幸」という漢字になります。辛抱して次の一步を踏み出せば幸せな瞬間は必ずやってくるということです。二つ目は弱音を吐くというときに使う「吐く」という漢字についてです。「吐く」という漢字は口にプラスマイナスと書きます。人間ですからマイナスな言葉である愚痴や悪口などを口から出すことは多いです。それが続く間は前向きになれません。マイナスな言葉を無くしていけばプラスだけが残る「叶う」という漢字になります。プラスのことを言い続ければ夢が叶う方向へ進むということです。いずれもなるほどと思わせてくれます。辛いが幸せに、吐くが叶うになることでどんどん成長でき、素晴らしい生活ができる気がしませんか。是非、辛いときこそ辛抱して一步踏み出す、自分にとってプラスになる言葉を言い続ける、思い続けることをして願いや夢を叶えてください。

予測不可能な時代と言われる厳しい社会を生き抜くには、新型コロナ感染拡大防止の時に感じた不自由さから学んだ工夫すること、多くの人と関わって多様性を認め自分らしく生きること、そして何より思いを持って一步踏み出すことが大事になってきます。受け身にならず、自ら考え行動し、社会生活をより豊かにできるように生きてください。もし途中で躓いたり、悩んだりすることがあったらいつでも舞子高校を訪ねてください。元気をもらえるはずですよ。

皆さんの健康と今後ますますのご活躍を職員一同祈念申し上げ、式辞とさせていただきます。

令和六年二月二十九日
兵庫県立舞子高等学校
校長 若浦直樹